

## マツノムツバキクイムシ

マツの幹に直径約2mmの丸い穴が開き、木くずやヤニがでる。樹皮下に甲虫（成虫）、最大長約3mm、体は黒く、円筒形、尾端背面がへこむ。または脚のない白いイモムシ（幼虫）、頭が黄色。

普通は新鮮な丸太や極度の衰弱木で繁殖する。生息数が増加すると生立木を加害することもあるとされるが、被害はごくまれなようである。

【学名】 *Ips acuminatus*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera）、キクイムシ科（Scolytidae）

【分布】 北海道、本州、四国；シベリア、朝鮮半島、中国、タイ、ヨーロッパ

### 【特徴】

成虫の尾端背面のへこみの左右には各3個の小さなトゲがある。

樹皮下にある産卵のための孔道（母孔、ぼこう）は木のほぼ垂直方向に1カ所から数本伸びる。母孔から水平に幼虫は内樹皮を食べ進む。母孔の長さは最大10cm。

マツにはよく似たカラマツヤツバキクイムシやヤツバキクイムシも寄生することがある。成虫は体長が4～6mm、尾端のトゲは左右各4個。母孔はたいてい長さ10cmを越える。

### 【生態】

アカマツやクロマツなどマツ属に限って寄生する。

成虫で越冬。年1～2皆発生する。新鮮な丸太や衰弱木の樹皮に穴を開けて樹皮下に潜り産卵する。幼虫は内樹皮を食べて成長し、蛹を経て成虫になる。

### 【被害と防除】

新鮮な丸太や枯れ木は繁殖源になるので速やかに処分する。

### 【文献】

1994. 野淵輝. マツノムツバキクイムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 165. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

